

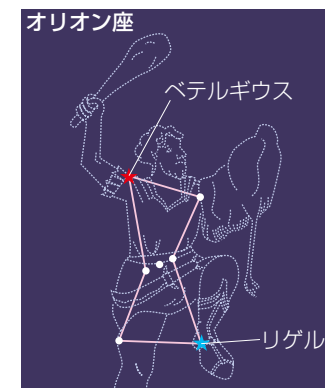


オリオン座



オリオン座は(1)に見られる星座です。(2)と(3)の2つの1等星をふくみます。中心部分には星が(4)並んでおり、「オリオン座の三つ星」とよばれます。

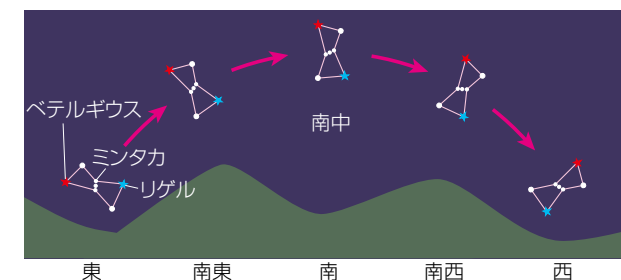
オリオン座が南の空に見えるとき、左上に見えるのが(5)にかがやく(6)で、右下に見えるのが(7)にかがやく(8)です。ベテルギウスは(9)をつくる星の一つです。



オリオン座の動き



オリオン座の三つ星は、東の空からのぼるときには縦に並んでおり、西にしずむときにはほぼ横になります。



オリオン座の三つ星のうちミンタカとよばれる星は、ほぼ真東からのぼり、ほぼ真西へしずみます。これは、春分の日や秋分の日(10)の太陽の動きと同じです。ミンタカが地平線より上にあるのは(11)です。ミンタカよりも北よりからのぼるベテルギウスが地平線より上にある時間はミンタカよりも(12)、南よりからのぼるリゲルはミンタカよりも(12)なります。

(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載していません。

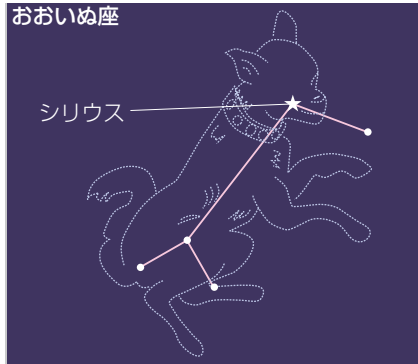
おいぬ座



おいぬ座は、(13)に見られる星座です。(14)をつくる星の一つである一等星の(15)をふくみます。

シリウスは、全天で最も明るいマイナス1.5等級の星で、(16)にかがやいています。

おいぬ座



ふたご座



ふたご座は、(21)に見られる星座です。一等星の(22)と、二等星のカストルをふくみます。

ポルックスは、(23)にかがやいています。

ふたご座



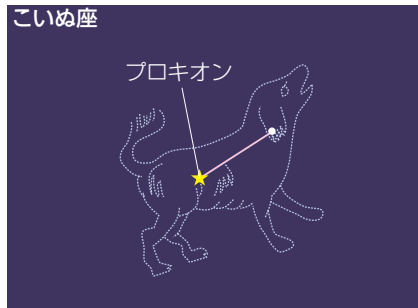
こいぬ座



こいぬ座は、(17)に見られる星座です。(18)をつくる星の一つである一等星の(19)をふくみます。

プロキオンは、(20)にかがやいています。

こいぬ座



おうし座



おうし座は、(24)に見られる星座です。一等星の(25)をふくみます。

アルデバランは、(26)にかがやいています。

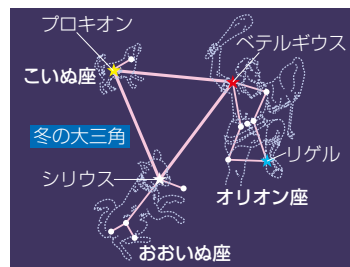
おうし座



冬の三大角



(27)の空に見える、(28)の1等星(29)、(30)の1等星(31)、(32)の1等星(33)が形づくる三角形を、(34)といいます。ほぼ正三角形をしています。

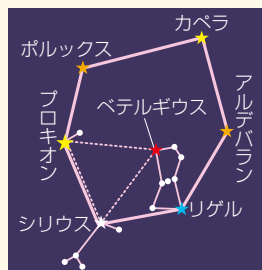


オリオン座には1等星が2つあるのだ。冬の三大角を形づくるのは、赤色をしたベテルギウスのほうだということをしっかり確にんしておくのだぞ。リゲルとまちがえないように注意が必要なのだ。

+ プラスワン

真冬の夜空には、多くの1等星がかがやいています。

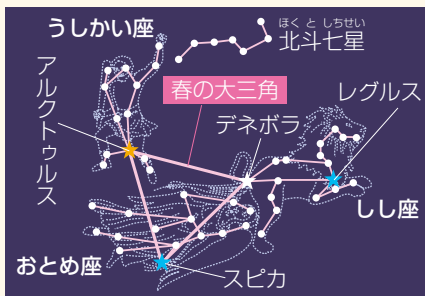
右のような、冬の三大角のベテルギウスを中心として、シリウスとプロキオンをふくむ大きな六角形は冬の六角、または冬のダイヤモンドなどとよべれます。



+ プラスワン

夏の三大角、冬の三大角のほかにも、目立つ星で形づくられた図形があります。

春の三大角は、うしかい座のアルクトゥルス、おとめ座のスピカの2つの1等星と、しし座のデネボラという2等星からなります。秋の四辺形は、ペガサス座の3つの星と、アンドロメダ座の1つの星からなります。



星座早見



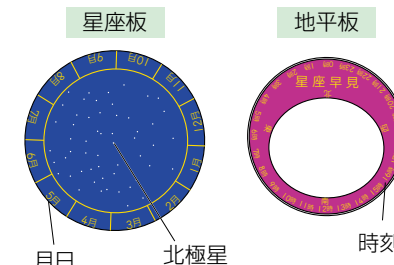
星座早見は、星空の動きや、見たい日時の星空のようすを手軽に調べられる道具です。星座早見盤ともよべれます。

星座早見のつくり

星座早見は、星座板の上に地平板が重なってできています。ふつう、2枚の板の中心がとめられていて、回転するようになっています。

北半球用の星座板の中心には(35)がかかれており、まわりに北半球で観測できる星や星座がえがかれています。そして、はしには時計回りに1年間の月日が書かれています。

地平板には、反時計回りに24時制で時刻が書かれています。また、星座早見は上を向いて使うため、北を上に向けたとき、右に(36)、左に(37)と書いてあります。

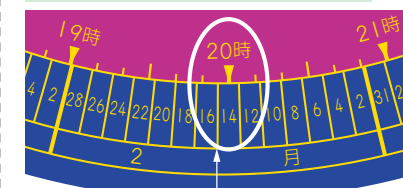


星座早見の使い方

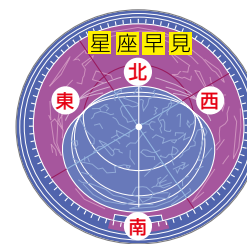
ある日時の空のようすを知りたいとき、星座早見は次のように使います。

- 1 星座板の月日と地平板の時刻を観測時刻に合わせます。
- 2 観測したい方位を向き、地平板の観測したい方位が(38)になるようにして星座早見を持ちます。

2月14日の20時に合わせたようす



※15日の場合は、14日と16日の間と時刻を合わせます。



北の空を見るとき
北の空



東の空を見るとき
東の空

